

地位の経歴を通じてみる不平等の 生成過程

麦山 亮太 Ryota Mugiyama

一橋大学経済研究所・日本学術振興会

mugiyama@ier.hit-u.ac.jp

2020/9/21 第69回数理社会学会大会受賞報告

謝辞

本受賞にあたり、

- 原稿にコメントをいただいた先生方と『社会学評論』査読者の先生方、
- 大学院での指導教官であった白波瀬佐和子先生、
- 普段から議論し、コメントを頂いている先生方や同僚の方々

にお礼申し上げます。

本論文の分析に使用した2005年SSM調査データの使用にあたっては、2015年SSMデータ管理委員会より許可を得ました。データの収集・整備に携わったの方々、そして調査に回答いただいたすべての皆様にお礼申し上げます。

報告の構成

1. 受賞論文報告

「キャリアの中断が生み出す格差：正規雇用獲得への持続的影響に着目して」

『社会学評論』 68(2): 248–264.

の内容紹介

2. 地位の経歴を通じてみる不平等の生成過程

地位の経歴に着目することで、どのように不平等のメカニズムをどのように明らかにできるのか、社会学にとって重要な問いに答えることができるのかについて

議論

受賞論文報告

問題背景

人びとの間に観察される格差がいかなる過程を通じて生まれたのかは、社会階層研究における主要な問題関心の1つ (Blau and Duncan 1967)

出身階層→学歴達成→初職→現職、という流れのみならず、労働市場に出てからのライフコースにおけるTrigger eventに着目 (Western et al. 2012)

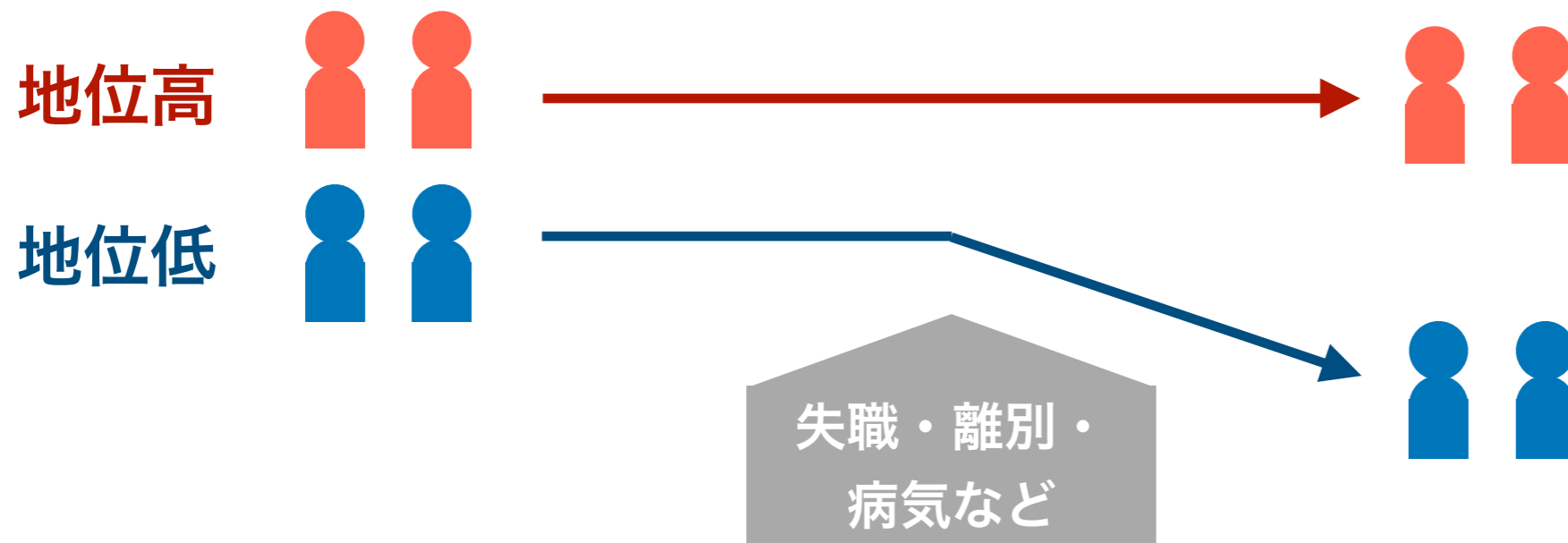


図 Trigger eventを通じた格差の生成過程

Trigger eventの一つとしてキャリアの中断（初職参入から高齢となって退職するまでの間に有業から無業への移動を経験すること）に着目

問い

キャリアの中断は女性特有のライフイベントとして検討され、女性のキャリア形成の阻害要因として位置づけられてきた。しかし...

- キャリアの中断は（女性のみならず）男性にとってどのような意味を持つのか？
- 中断を経験しない女性とする女性との間ではどの程度の格差が生まれるのか？

研究目的

キャリアの中断が正規雇用獲得確率に与える影響に着目し、以下の問いを検討

- **中断を経験した後は、それ以前よりも正規雇用につきにくくなるか？その効果はどれほど長く残るのか？**
- **だれがいかなる経緯（年齢・期間・理由）で中断に至ったのかによって、その効果は異なるか？**

分析枠組み

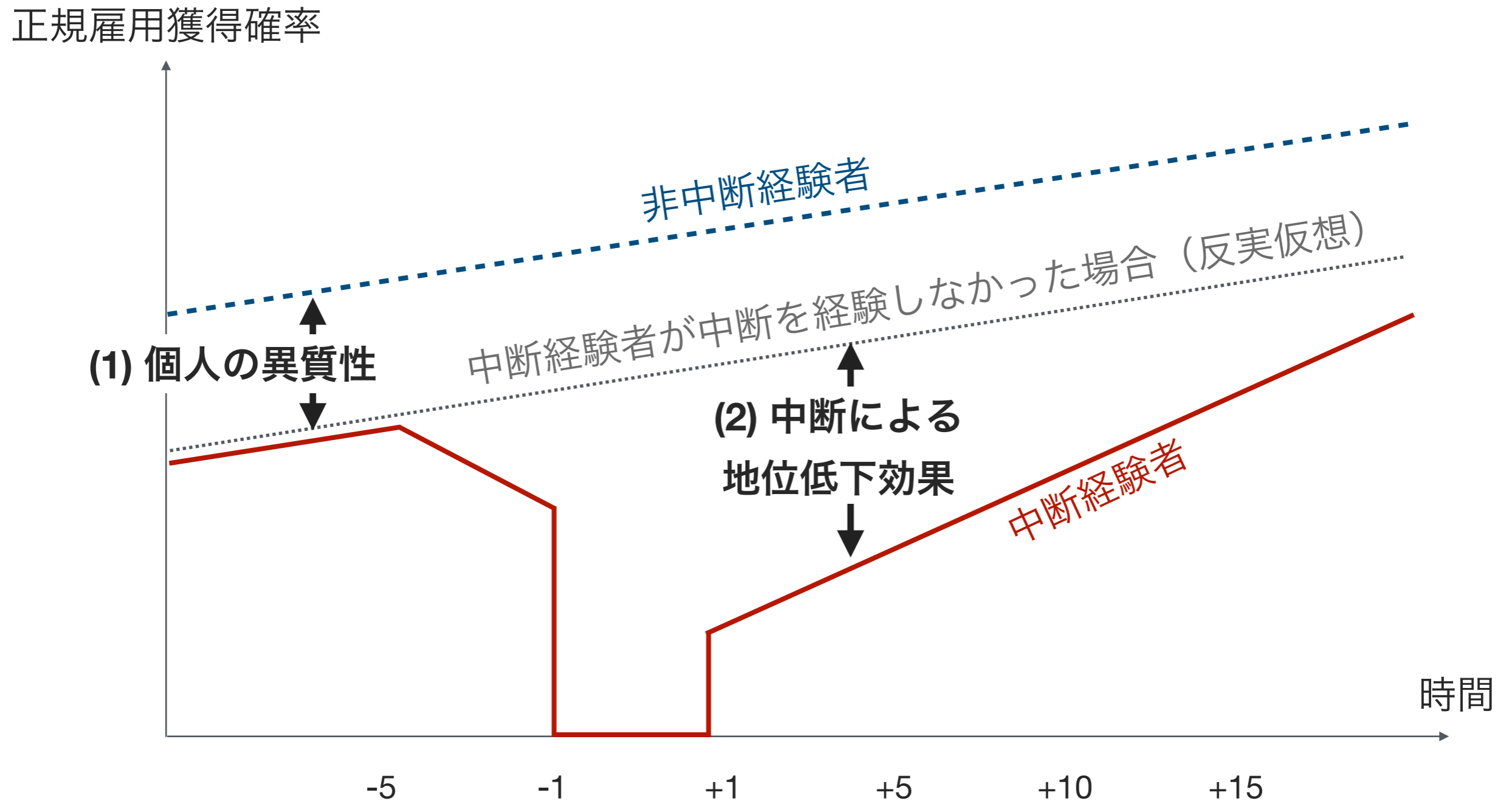


図 個人の異質性と中断の効果の持続性をとらえる枠組み

データと分析対象

データ

2005年社会階層と社会移動調査（SSM調査）

分析対象

15歳から59歳までの被雇用のパーソン・イヤー

サンプルサイズ

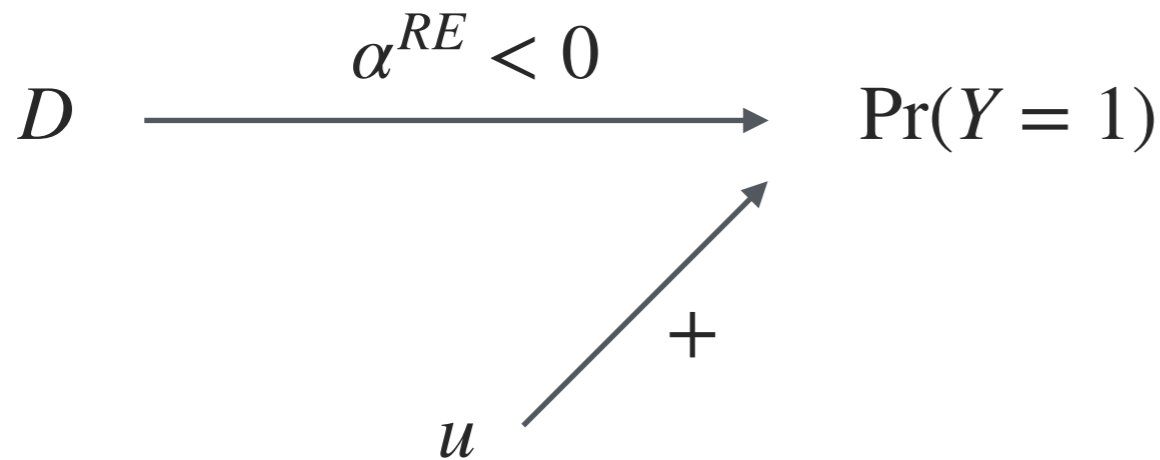
男性55,611（人数2,244）、女性39,036（人数2,566）。

雇用形態（正規雇用／非正規雇用）の変化がないケースを除外した際のサンプルは、男性8,704（人数345）、女性20,086（人数1,132）。

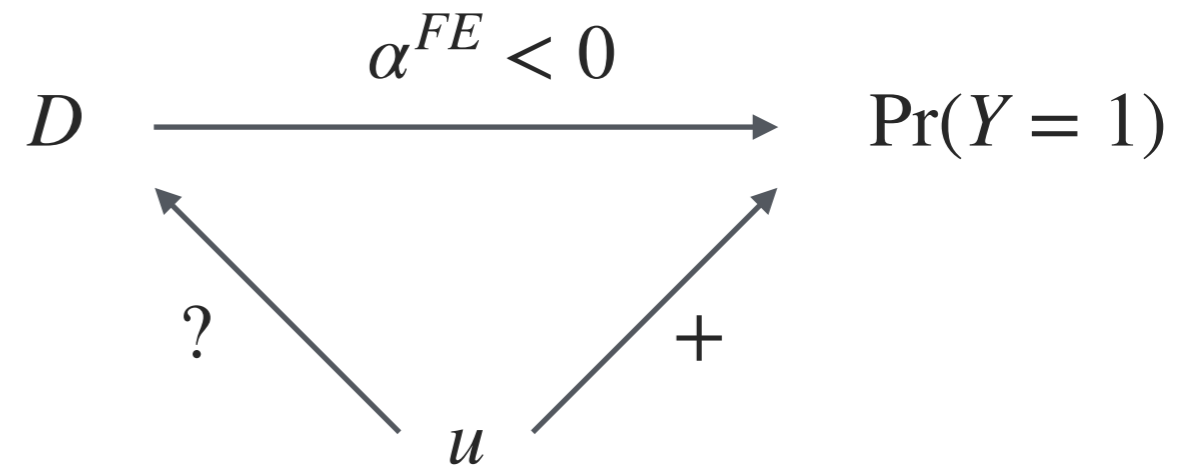
分析手法 | 固定効果・ランダム効果ロジットモデル

個人*i*が時点*t*において正規雇用（1）であるか否か（ Y_{it} ）に対して、中断からの経過年数
を示すダミー変数群 D_{it} と時変の統制変数 X_{it} で回帰する以下のロジットモデルを推定：

$$\log \frac{\Pr(Y_{it} = 1)}{1 - \Pr(Y_{it} = 1)} = \alpha_1 D_{i,T-1} + \alpha_2 D_{i,T+1} + \alpha_3 D_{i,T+2\sim 4} + \alpha_4 D_{i,T+5\sim 9} \\ + \alpha_5 D_{i,T+10\sim 19} + \alpha_6 D_{i,T+20\sim} + X_{it}\beta + u_i$$



ランダム効果モデルの仮定



固定効果モデルの仮定

$|\alpha^{RE}| < |\alpha^{FE}|$ であるならば、 $\text{Corr}(D, u)$ は - であると判断できる。

中断の効果はどの程度持続的か

	男性		女性	
	ランダム効果	固定効果	ランダム効果	固定効果
T-1	-2.048 ***	-1.704 ***	-0.718 ***	-0.538 ***
T+1	-3.443 ***	-2.464 ***	-3.498 ***	-2.656 ***
T+2~4	-2.715 ***	-1.782 ***	-3.116 ***	-2.347 ***
T+5~9	-2.528 ***	-1.599 ***	-2.493 ***	-1.770 ***
T+10~19	-2.739 ***	-1.875 ***	-1.958 ***	-1.262 ***
T+20~	-1.443 ***	-0.591	-1.640 ***	-0.967 ***

中断直後は正規雇用となる確率がもっとも低くなり、その後上昇する。しかし**負の効果はその後も残存**する。

固定効果の係数はランダム効果の係数より小さく、効果の一部はもともと**正規雇用になりにくい者が中断を経験しやすい**ことによるという可能性を示唆。

中断の効果はどのような場合に顕著か

男性				
	主効果	×30歳以上	×2年以上	×非自発的離職
T-1	-0.460	-0.292	0.197	-2.192 **
T+1	-0.763	-3.561 ***	0.039	-0.148
T+2~4	0.002	-3.860 ***	-0.170	0.190
T+5~9	0.917 *	-3.994 ***	-1.670 ***	-0.744
T+10~19	-0.556	-2.731 ***	-0.033	-0.616

女性				
	主効果	×30歳以上	×2年以上	×非自発的離職
T-1	-1.042 ***	0.042	0.882 **	-1.593 *
T+1	-1.774 ***	-1.478 **	-1.103 **	-0.991
T+2~4	-1.335 ***	-1.041 **	-1.286 ***	-0.957
T+5~9	-1.068 ***	-1.004 **	-0.831 **	-1.811 **
T+10~19	-0.997 ***	-0.960 **	-0.325	-2.482 **

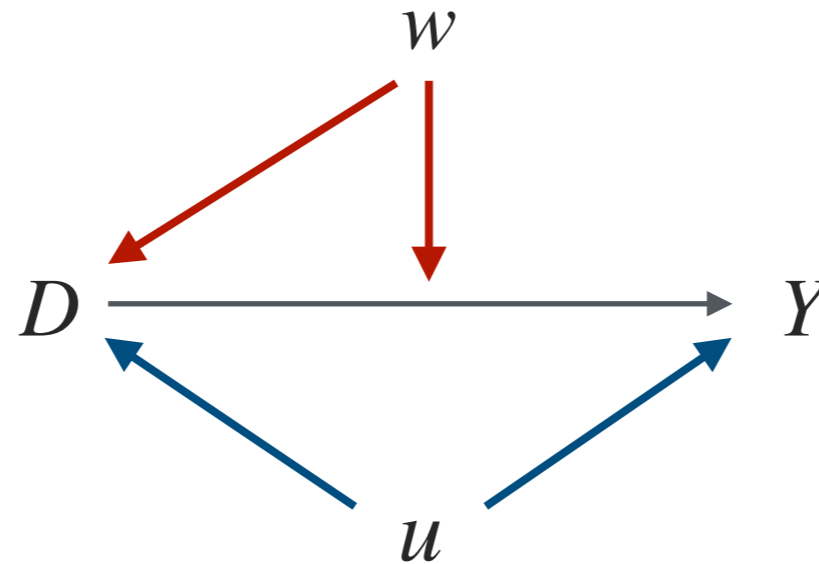
キャリアの中断は、男性にとっても女性にとっても**その後の正規雇用獲得確率を持続的に低い水準に抑える。**

ただし、どのような中断を経験したかによってその影響は異なる。

- **男性はとくに30歳以上に中断を経験したことが強い効果**をもち、それ以外の場合には中断の効果はあまりみられない。
- **女性は30歳以上、長期間、非自発的理由による中断のいずれも負の効果**があり、これらのいずれにも当てはまらなくとも、**負の効果がみられる。**

ランダム効果モデルと固定効果モデルの係数の違いから、こうした中断はもともと正規雇用に就きにくい者に発生しやすく、それ以前の格差をさらに拡大する契機 (cumulative disadvantage) となっていることが示唆される。

その後：因果効果の観点からみた本研究の解釈



$\text{Cor}(D, Y | u)$ ：同一個人の中断する前と中断した後を比較（本研究で対処）

$\text{Cor}(D, Y | u, w)$ ：内生的なキャリア中断の選択を考慮（c.f. about marriage/fatherhood premium, see Killewald and Lundberg 2017; Ludwig and Brüderl 2018; Mari 2019）

他の時変の独立変数を一定として、（個人内で）非正規雇用になりやすい時期に中断する人が多いなら過大推計となる。男性全体・女性主効果の結果などにこの可能性。

そのほか、再入職者が正規雇用になりやすい人に偏っているならば、中断の効果は過小推計となる。とくに女性に当てはまる可能性。

イベントの効果をどのような視点から研究していくか

失職・失業の社会経済的なインパクトの測定 (Brand 2015)

- 短期・長期の賃金低下、繰り返し失業、職業的地位への影響
- 世帯の労働供給、子どもの自尊心・成績・中退・教育達成
- 健康・疾病、抑うつ、心理的ストレス

→外生的なショックを利用して正確な因果効果を測定する方向

ライフコースを通じて不平等が維持・拡大する過程 (Cheng 2016)

- ライフコースにおけるイベント (結婚、出産、転職、失業、離別、転居...etc)
の多くには内生性の問題がある

→どのような者がイベントを経験するのか、だれにとってイベントの効果が大きい・小さいのかと合わせて分析していく必要

地位の経歴を通じてみる不平等の生成過程

社会学と階層研究の問題関心

社会学の問題関心

社会現象を正確に記述する

社会現象がなぜ生じているのかを、社会的側面に着目して説明する

(社会現象の記述・説明を通じて、社会問題の解決に貢献する)

社会階層・社会移動研究の問題関心

不平等はどの程度存在し、いかに推移しているのか？

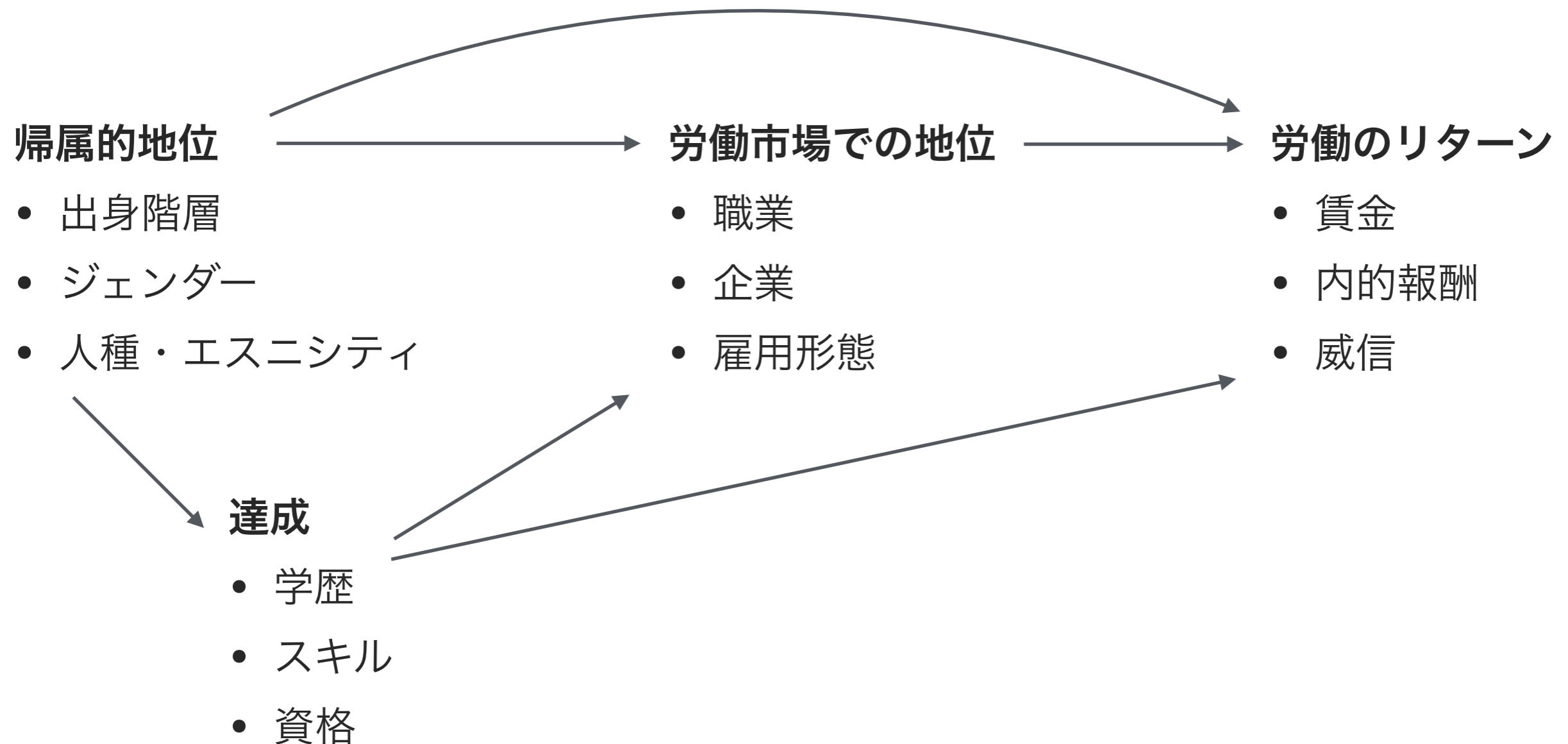
なぜ不平等が維持・再生産・変化するのか？

(不平等の記述・説明を通じて、不平等の解決に貢献する)

階層研究における労働市場での地位の役割

労働者は労働市場で特定の地位 position に就くことによって、さまざまなリターンを得る

地位には資源が付随し、人びとはその資源をもとに種々のリターンを獲得する



階層研究における仮定と地位の測定

地位は人びとのライフチャンスを規定する

地位は労働のリターンやライフチャンスと密接に結びつくため (Blau & Duncan 1967; Erikson & Goldthorpe 1992; Hauser & Warren 1997)、地位の移動は重要な意味を持つ

一時点的な地位測定がもつ限界

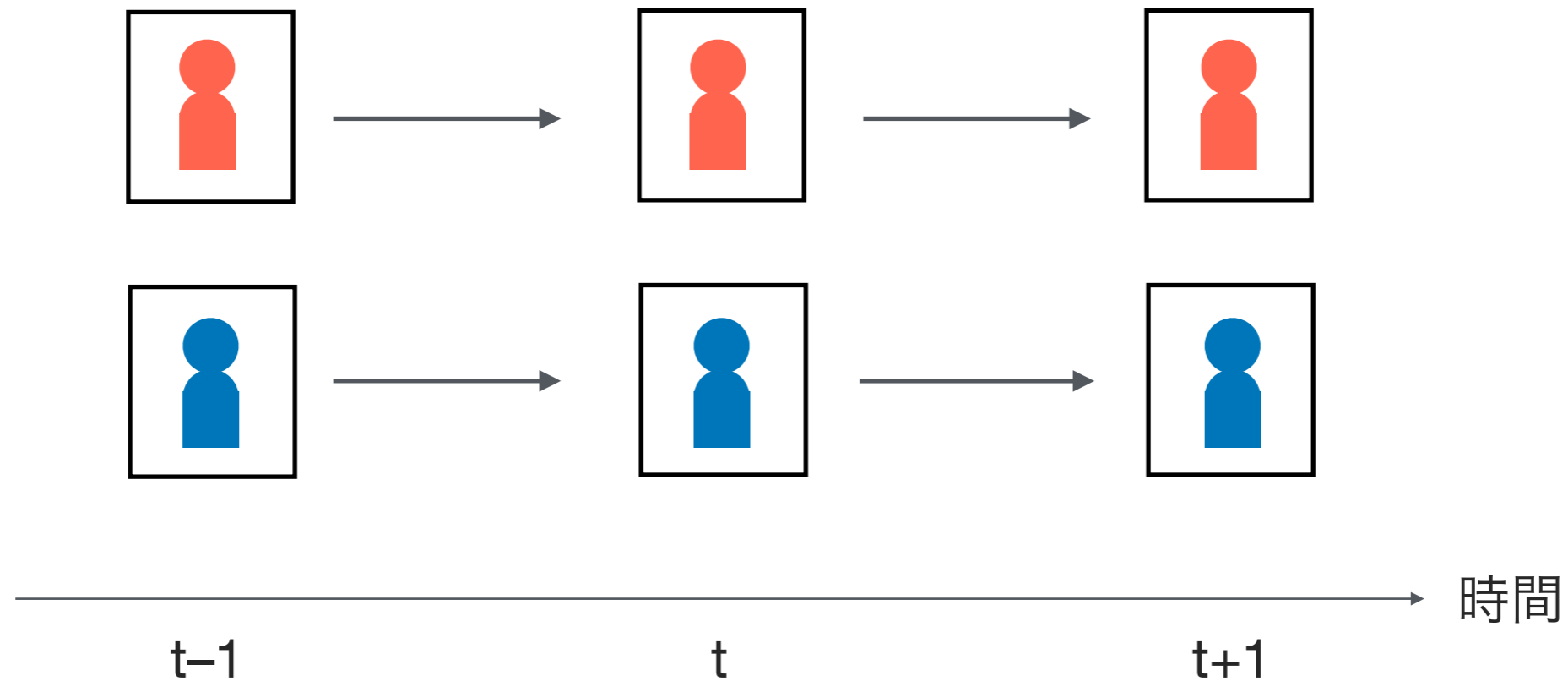
職業間移動の増加 (Jarvis & Song 2017)

賃金に対する地位 (職業) の説明力の低下? (Kim & Sakamoto 2008; Mouw & Kalleberg 2010; Kim et al. 2018)

経歴への着目

一時点の地位 (だけ) ではなく「どのような経歴を歩んできたか」という経歴が個人の有する資源を測定するうえで重要な役割を果たす。*この傾向は地位の安定性が自明でなくなるほど重要になるのではないか?

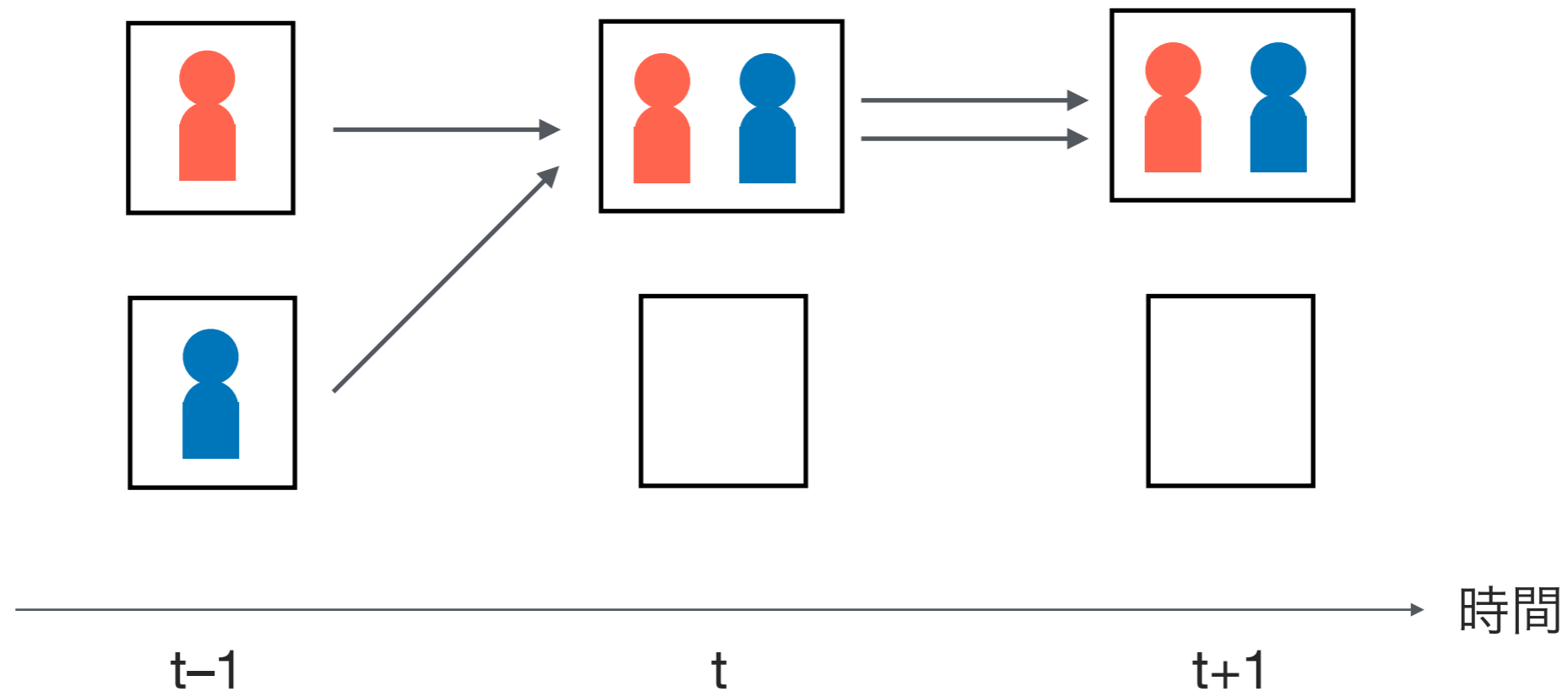
なぜ地位の経歴が重要か



高いリターンを得られる地位に所属しているだけではなく、**継続してその地位に所属している**ことによって、種々の資源をストックする

- **スキル**：職務の遂行に必要な訓練を受けたり・経験を蓄積する
- **ネットワーク**：他の者に対する権力を行使できたり、援助を得られる
- **威信・文化的適合**：尊敬を集めたり、地位に適合的なふるまいを身につける

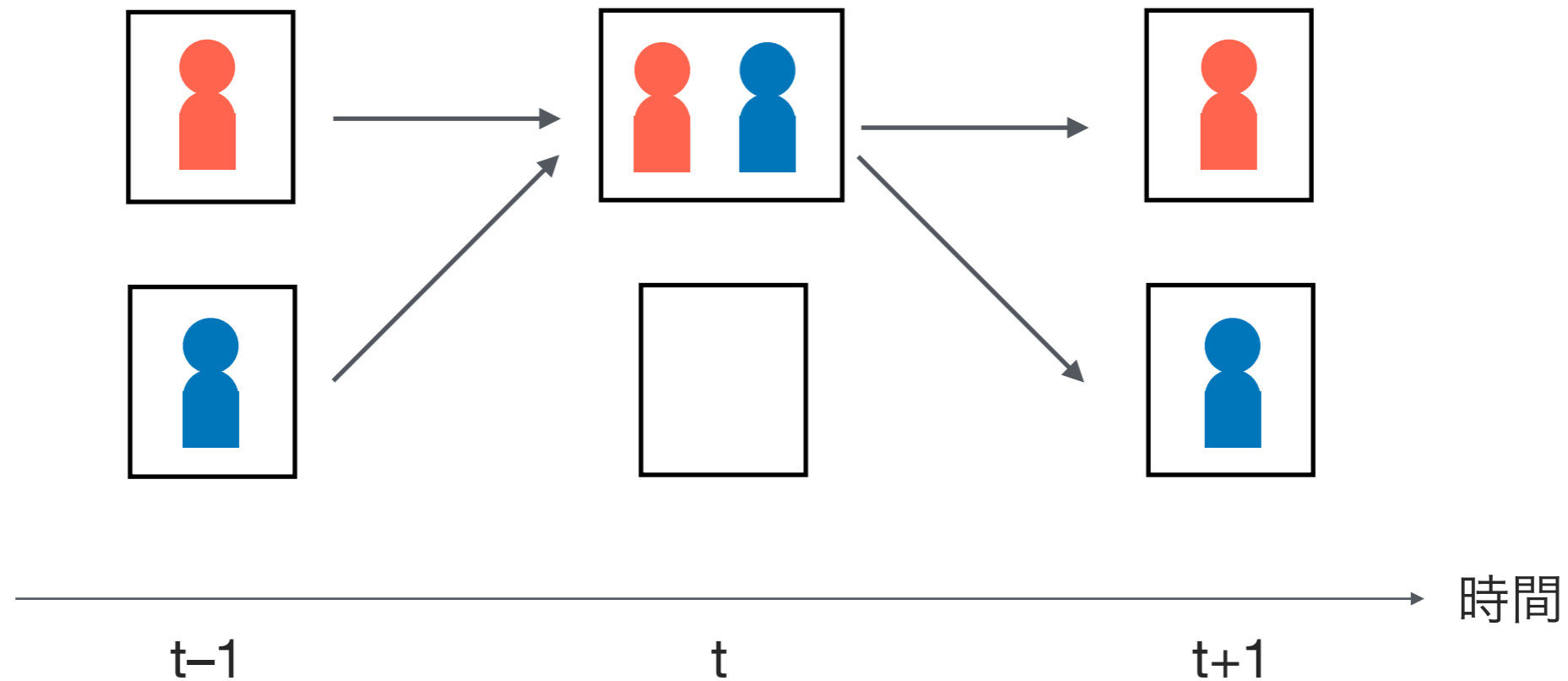
過去の履歴はすぐには消えない？



低い地位から高い地位へと移動した者は、もともと高い地位にいた者と同等のリターンを得られないかもしれない

世代間移動や教育の文脈では、出身背景や教育歴が地位へのアクセスを超えてもつ影響に関心が向けられつつある (Beattie 2018; Jack 2019; Friedman & Laurison 2020)

一度高い地位へ参入すれば十分なのか？



高い地位に一度は参入したとしても、それは一時的な状態にすぎないかもしれない。地位への固着性・継続性も重要

ある地位に所属する者と比較して非典型的とみなされる属性や経歴を持つ者は排除されやすい (Jacobs 1989; Pedulla 2020)

地位の経歴に着目した研究

地位間の移動 (Sørensen 1975; Blossfeld 1986; Mayer and Carroll 1990; DiPrete et al. 1997; Gangl 2004)

地位の軌跡 (Barone et al. 2011; Schulz & Maas 2012; Manzoni et al. 2014)

地位の平均や分散は年齢とともにどのように推移していくのか？

誰がより有利な地位の軌跡を描くのか？

類型化 (Bukodi et al. 2016; Toft 2019; Fuller & Stecy-Hildebrandt 2015; Killewald & Zhuo 2019)

複雑な経歴はどのようなパターンに縮約できるか？

誰がどのようなパターンの経歴を歩むのか？

誰がどのような経歴を歩むのかだけでなく、それがどのような帰結をもたらすのかも検討する必要

不平等を説明する鍵としての地位の経歴

一時点的な不平等への示唆

同じ地位に就いていたとしてもリターンに違いがある（分散を十分に説明できない）のは、そこに至る経歴が異なるために、蓄積された資源に差があるから？

長期的な不平等への示唆

賃金（Cheng 2014）、所得（Crystal et al. 2017）、資産（Killewald et al. 2017）、健康（Wilson et al. 2007）など、さまざまなアウトカムの不平等（分散）やその属性間の差はライフコースを通じて拡大していく傾向

→ 地位の経歴に着目することで、具体的なメカニズムに迫ることができる

（例：なぜある属性を持つ者はより鋭い賃金上昇を経験するのか？→スキルを蓄積できる地位にとどまり続けているから）

良質で豊富なデータの収集と蓄積

地位の経歴に着目することで、資源の蓄積などの動態的な過程を分析に組み込み、不平等の生成過程をよりクリアに捉えることができる

そのためには、良質かつ広範なデータを継続して収集していくことが不可欠

理論的な問いと経験的な分析を結びつける

- 何が問いなのか？それはなぜ（社会学的に）重要か？
- 問いに答えるためにどのようなデータ、どのような方法が必要なのか？
- データはいかなる概念を測定しているのか？
- 分析の結果はいかなる意味を持っているか？

文献

- Barone, Carlo, Mario Lucchini, and Antonio Schizzerotto. 2011. "Career Mobility in Italy: A Growth Curves Analysis of Occupational Attainment in the Twentieth Century." *European Societies* 13(3):377–400.
- Beattie, Irene R. 2018. "Sociological Perspectives on First-Generation College Students." Pp. 171–91 in *Handbook of the Sociology of Education in the 21st Century*, edited by B. Schneider. Springer.
- Blau, Peter Michael and Otis Dudley Duncan. 1967. *The American Occupational Structure*. New York: Free Press.
- Blossfeld, Hans-Peter. 1986. "Career Opportunities in the Federal Republic of Germany: A Dynamic Approach to the Study of Life-Course, Cohort and Period Effects." *European Sociological Review* 2(3):208–25.
- Brand, Jennie E. 2015. "The Far-Reaching Impact of Job Loss and Unemployment." *Annual Review of Sociology* 41:359–75.
- Bukodi, Erzsebet, John H. Goldthorpe, Brendan Halpin, and Lorraine Waller. 2016. "Is Education Now Class Destiny? Class Histories across Three British Birth Cohorts." *European Sociological Review* 32(6):835–49.
- Cheng, Siwei. 2014. "A Life Course Trajectory Framework for Understanding the Intracohort Pattern." *American Journal of Sociology* 120(3):633–700.
- Cheng, Siwei. 2016. "The Accumulation of (Dis)Advantage: The Intersection of Gender and Race in the Long-Term Wage Effect of Marriage." *American Sociological Review* 81(1):29–56.
- Crystal, Stephen, Dennis G. Shea, and Adriana M. Reyes. 2017. "Cumulative Advantage, Cumulative Disadvantage, and Evolving Patterns of Late-Life Inequality." *Gerontologist* 57(5):910–20.
- DiPrete, Thomas A., Paul M. De Graaf, Ruud Luijkx, Michael Tåhlin, and Hans-peter Blossfeld. 1997. "Collectivist versus Individualist Mobility Regimes? Structural Change and Job Mobility in Four Countries." *American Journal of Sociology* 103(2):318–58.

- Erikson, Robert and John H. Goldthorpe. 1992. *The Constant Flux: A Study of Class Mobility in Industrial Societies*. Oxford: Clarendon Press.
- Friedman, Sam and Daniel Laurison. 2020. *The Class Ceiling: Why It Pays to be Privileged*. Policy Press.
- Fuller, Sylvia and Natasha Stecy-Hildebrandt. 2015. “Career Pathways for Temporary Workers: Exploring Heterogeneous Mobility Dynamics with Sequence Analysis.” *Social Science Research* 50:76–99.
- Gangl, Markus. 2004. “Institutions and the Structure of Labour Market Matching in the United States and West Germany.” *European Sociological Review* 20(3):171–87.
- Hauser, Robert M. and John Robert Warren. 1997. “Socioeconomic Indexes for Occupations: A Review, Update, and Critique.” *Sociological Methodology* 27(1):177–298.
- Jack, Anthony Abraham. 2019. *The Privileged Poor: How Elite Colleges Are Failing Disadvantaged Students*. Harvard University Press.
- Jacobs, Jerry A. 1989. *Revolving Doors: Sex Segregation and Women’s Careers*. Stanford University Press.
- Jarvis, Benjamin F. and Xi Song. 2017. “Rising Intragenerational Occupational Mobility in the United States, 1969 to 2011.” *American Sociological Review* 82(3):568–99.
- Killewald, Alexandra and Xiaolin Zhuo. 2019. “U.S. Mothers’ Long-Term Employment Patterns.” *Demography* 56:285–320.
- Killewald, Alexandra, Fabian T. Pfeffer, and Jared N. Schachner. 2017. “Wealth Inequality and Accumulation.” *Annual Review of Sociology* 43:379–404.
- Killewald, Alexandra and Ian Lundberg. 2017. “New Evidence Against a Causal Marriage Wage Premium.” *Demography* 54:1007–28.

- Kim, ChangHwan and Arthur Sakamoto. 2008. "The Rise of Intra-Occupational Wage Inequality in the United States, 1983 to 2002." *American Sociological Review* 73(1):129–57.
- Kim, Chang Hwan, Christopher R. Tamborini, and Arthur Sakamoto. 2018. "The Sources of Life Chances: Does Education, Class Category, Occupation, or Short-Term Earnings Predict 20-Year Long-Term Earnings?" *Sociological Science* 5:206–33.
- Ludwig, Volker and Josef Brüderl. 2018. "Is There a Male Marital Wage Premium? New Evidence from the United States." *American Sociological Review* 83(4):744–70.
- Manzoni, Anna, Juho Härkönen, and Karl Ulrich Mayer. 2014. "Moving on? A Growth-Curve Analysis of Occupational Attainment and Career Progression Patterns in West Germany." *Social Forces* 92(4):1285–1312.
- Mari, Gabriele. 2019. "Is There a Fatherhood Wage Premium? A Reassessment in Societies With Strong Male-Breadwinner Legacies." *Journal of Marriage and Family* 81(5):1033–52.
- Mayer, Karl Ulrich and Glenn R. Carroll. 1990. "Jobs and Classes: Structural Constraints on Career Mobility." Pp. 23–52 in *Event History Analysis in Life Course Research*, edited by K. U. Mayer and N. B. Tuma. University of Wisconsin Press.
- Pedulla, David S. 2020. *Making the Cut: Hiring Decisions, Bias, and the Consequences of Nonstandard, Mismatched, and Precarious Employment*. Princeton University Press.
- Schulz, Wiebke and Ineke Maas. 2012. "Studying Career Success—The Role of Resources and Norms for Occupational Status Attainment in the Netherlands, 1865–1940." *European Sociological Review* 28(2):220–40.
- Sørensen, Aage B. 1975. "The Structure of Intragenerational Mobility." *American Sociological Review* 40(4):456.
- Toft, Maren. 2019. "Mobility Closure in the Upper Class: Assessing Time and Forms of Capital." *The British Journal of Sociology* 70(1):109–37.
- Western, Bruce, Deirdre Bloome, Benjamin Sosnaud, and Laura Tach. 2012. "Economic Insecurity and Social Stratification." *Annual Review of Sociology* 38(1):341–59.
- Willson, Andrea E., Kim M. Shuey, and Glen H. Elder, Jr. 2007. "Cumulative Advantage Processes as Mechanisms of Inequality in Life Course Health." *American Journal of Sociology* 112(6):1886–1924.